

各 位

会 社 名 株式会社 東 研
 代表者名 代表取締役社長 小 平 学
 (JASDAQ コード番号 6738)
 問合せ先 取締役総務部長 大類 隆義
 (TEL. 03-5325-4321)

平成21年4月期通期(連結・個別)業績予想の修正 及び特別損失の発生に関するお知らせ

最近の業績動向等を踏まえ、平成 20 年 12 月 12 日に公表しました平成 21 年 4 月期（平成 20 年 5 月 1 日～平成 21 年 4 月 30 日）の業績予想の修正と、特別損失が発生いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 21 年 4 月期通期の業績予想数値の修正 (平成 20 年 5 月 1 日～平成 21 年 4 月 30 日)

(1) 連結業績予想値の修正

(単位：百万円、%)

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	5,518	124	71	5
今 回 修 正 予 想 (B)	4,470	△280	△343	△573
増 減 額 (B-A)	△1,048	△404	△414	△578
増 減 率 (%)	△19.0	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成 20 年 4 月期)	5,628	△108	△162	△341

(2) 個別業績予想値の修正

(単位：百万円、%)

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	5,014	101	55	1
今 回 修 正 予 想 (B)	4,070	△266	△314	△599
増 減 額 (B-A)	△944	△367	△369	△600
増 減 率 (%)	△18.8	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成 20 年 4 月期)	5,210	△82	△127	△370

(3) 連結業績予想値の修正の理由

日本の経済状況は、米国発のサブプライムローン問題に端を発した金融危機によって、企業収益の低下、個人消費の減少など国内景気は後退傾向にあり、今後は暫くの間、製造業における設備投資は大幅に抑制されると思われ、予測は極めて難しい状況となっております。

バーコード関連事業においては、企業活動の低迷が顕著となっておりますが、医療、食品業界などにおける安全安心の市場要求は高く、トレーサビリティの用途は増えており、このような業界に営業を集中させ効率性を高めるとともに、設備投資に前向きな省エネ産業、公共産業等に営業先をシフトするなどして新規客先の開拓にも努めております。しかしながら、取引先各社の設備投資意欲の減退は予想以上であり、また、第3四半期の売上高実績も低調であることから、通期において見込んでいた売上高には至らないものと予想されます。特に医療業界において、昨年平成20年9月に厚生労働省から通達されていた「医療用医薬品のバーコード表示」が施行されたことから、この施行による新コードに対応したオフライン検証器を市場投入しておりますが、予想外に市場の動きが遅く、また、インライン用検証器の開発スケジュール

の遅れにより、市場投入の時期が遅れてしまいました。X線事業においては、設備投資意欲が旺盛な電池、新素材業界や、重要保安部品の半導体、高密度実装基板等の営業を展開しておりますが、半導体、電子部品、自動車業界などにおいては、設備投資導入を見送る傾向が続き、昨年後半からX線顕微鏡などの高額製品の販売台数が伸びておりません。その他の事業においては、大幅な投資抑制による半導体業界の冷え込みの影響は今後も続くものと思われま

す。以上の結果、通期の連結売上高の見通しを55億18百万円から44億70百万円に修正いたします。

利益面においては、全社を挙げて経費の抑制、仕入単価の見直し、在庫削減等を積極的に行っておりますが、上記、各セグメントにおける売上高の修正の影響、たな卸資産の評価損10百万円、有価証券の時価評価による評価損、固定資産の減損、及び繰延税金資産の見直しによる取崩し63百万円などから、通期の業績予想を以上のとおり修正いたします。

(4) 個別業績予想値の修正の理由

連結と同様の理由により、売上高、営業利益、経常利益とも、以上のとおり修正いたします。また、上記連結での損失に加え、当社の子会社である Tohken Europe B.V. の評価の見直しによる減損により、当期純損失も以上のとおり修正いたします。

2. 特別損失の発生

第2四半期までに計上いたしました他に、当四半期連結会計期間におきまして、下記のとおり特別損失が発生いたしました。

(1) 投資有価証券評価損

投資有価証券の時価評価により、第2四半期計上額に38百万円(連結)及び37百万円(単独)の追加が発生したものであります。

(2) 減損損失

固定資産の減損96百万円(連結・単独)、当社の子会社である Tohken Europe B.V. に対する減損69百万円(単独)及びのれんの評価の見直しによる減損5百万円(連結)が発生したものであります。

※ 上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以 上